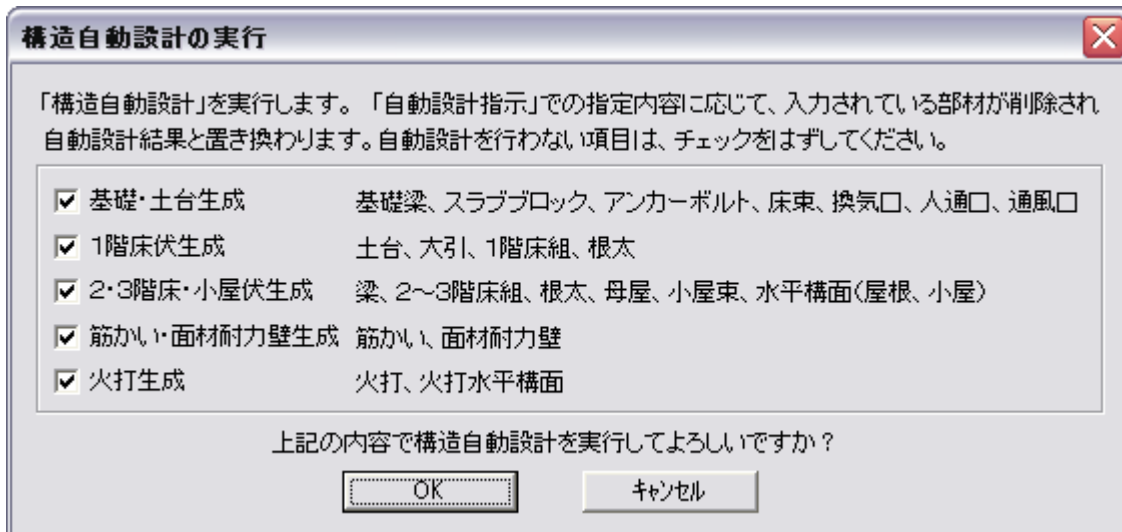


構造自動設計オプションの実行エラー等について

1. 構造自動設計の実行

「構造自動」タブにある「構造自動設計」をダブルクリックすると、以下の画面が表示されます。



「自動設計指示」において「実行する」となっている項目がチェックされます。チェックされている項目の右側に表示されている部材が入力されている場合、構造自動設計を実行すると削除され、自動設計結果と置き換わります。チェックをはずすと、構造自動設計を実行しても、その項目については入力された部材がそのまま残ります。自動設計を行う内容を指定し、「OK」ボタンをクリックすると、構造自動設計が実行されます。

2. 実行時のデータチェック

上記1で「OK」をクリックし構造自動設計を実行しても、データに以下の問題がある場合は構造自動設計を行わず、エラーメッセージが表示されます。

- **ファイル名に空白またはドット(.)は使用できません。**
「ファイル」メニューから「名前を付けて保存」で空白およびドットを取ったファイル名に変更して保存してから、再び実行してください。
- **屋根領域(または部屋領域)が第一象限にありません。**
物件を座標移動で第1象限内(原点より右上)に移動してください。(詳細は次項「4. 物件全体の座標移動方法」参照)

3. 構造自動設計終了および中断のメッセージ表示


構造自動設計が終了した場合、もしくは中断した場合に以下のメッセージが表示されます。

- **構造自動設計が終了しました。**
構造自動設計処理が終了しています。
- **構造自動設計が終了しましたが、警告が出ています。**
構造自動設計処理が終了していますが、警告がエラーメッセージに表示されます。
- **構造自動設計が中断されました。**
物件データに問題があるため、構造自動設計処理が中断されました。エラーメッセージを参照してください。

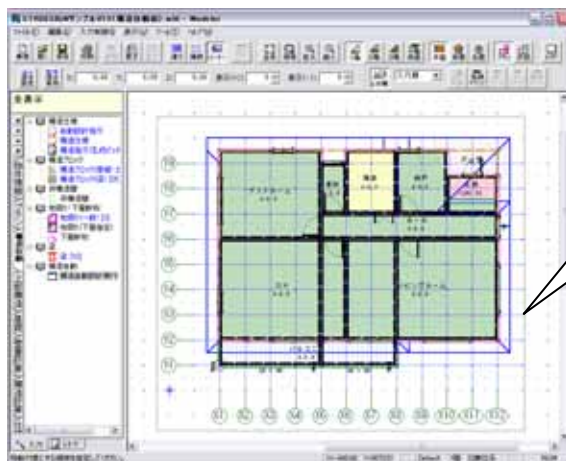
4. 物件全体の座標移動方法

必ず一度物件を保存（バックアップ）してから座標移動を行ってください。

「表示」メニューから「レイヤ選択」を選択し、レイヤを「default」に変更します。

ツールバーの「全体表示」 をクリックします。

「編集」メニューから「座標移動」を選択し、その直後に物件全体（通り芯、番付を含む）を左クリックのドラッグで囲みます。



「座標移動」を選択後、左クリックのドラッグで物件全体を囲む

「座標の移動」画面で「X座標」と「Y座標」に移動距離を入力し、「OK」ボタンをクリックします。
移動距離は基本モジュールの倍数としてください。（910の場合、910、1820等）

